



HOTEL  
**THE KNOT**  
YOKOHAMA

HOTEL  
**THE KNOT**  
YOKOHAMA

2017年12月1日、横浜国際ホテルは  
「HOTEL THE KNOT YOKOHAMA」として生まれ変わります。



# 横浜

## 港町ヨコハマの面影を残しつつ、新しいYOKOHAMAを創る 街と人の結び目となるホテルへ

- KNOT -

これまで親しまれてきたホテル、そして地元への敬意を軸に、リニューアルに着手しました。

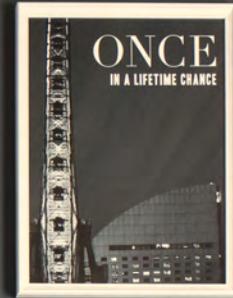
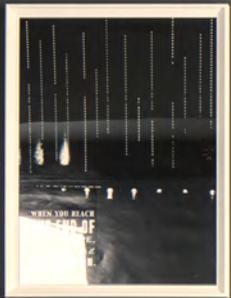
横浜国際ホテルは、業歴30年を超える老舗のホテルとして、横浜の界隈のシンボルとなっていました。この地周辺は戦前、アメリカの石油会社2社が所有する土地でしたが、戦前戦後に空地化。国内の民間事業者によって資材置き場として利用された後、再びアメリカの石油会社の手に渡り、暫くの時を経て相模鉄道が買取りに着手。関東大震災後によりやく開発が始まって以降、現在に至るまで繁華街として多くの人に親しまれてきたエリアであり、横浜西口の商業界隈として広く知られてきた歴史があります。

横浜国際ホテルは1984年に現在の地で開業。以来、地元の方々に親しまれてきた経緯があり、リニューアルにあたっていちごが重視したことは、地元の名残でもある建物は出来るだけその景観を残しつつ、現在のホテル利用ニーズに対応した内容面でのリニューアルを図ることでした。

この方針に則り、各方面で活躍中のプロフェッショナルの協力を仰ぎ、計画を進めました。



写真：左から）現在の横浜国際ホテル・目の前を流れる幸川・横浜駅、高島屋方面



11:42



ホテル名の「THE KNOT」には結び目という意味を持つほか、「航海の際の速さ（の単位）」という  
意味があり、客室は港町横浜を感じるキャビンをイメージ。  
室内には、若手写真家：松木宏祐氏が撮りおろした横浜の街を中心とした写真を飾り、横浜を舞台  
とした街のワンシーンとなることを演出。  
街の魅力を伝えるホテルとして、人と街の結び目となるよう、地域に根差したプレゼンテーション  
を展開します。

# 温故知新

故きを温ね  
新しきを知る

横浜は 1859 年の開港以来、港町ならではの東洋と西洋の文化が交錯する街として独自の進化を遂げています。

横浜国際ホテルもまた 30 年以上の間、おもてなしに満ちた運営を続け、お客様の交流やホテルとしての文化を蓄積・継承してきました。今回のリニューアルにあたり、これまでの歴史と、これからのホテルに必要とされる「間」を取り入れ、懐かしくも新しい独自の空間へと生まれ変わります。

街 - 旅 - 人を「結ぶ」ホテル

## THE KNOT

— K N O T = 結 び 目 ・ 絆 —

旅人も・働く人も・暮らす人も、ここに集うゲストたちが歴史・ヒト・コト・モノに出会う場所。

地元ならではのローカルスポットや観光エリア、アート、カルチャーの情報発信拠点となる「LOCAL FIRST」のホテルを目指します。

### 歴史と今

30 年以上の歴史ある横浜国際ホテルと新しい感性の出逢い。ノスタルジックでオーセンティックな横浜国際ホテルの風情を生かしたデザインは、商業空間やブランドの価値創造を得意とする、株式会社ランドローの橋本健司氏によるもの。ブランディングからインテリアデザインまでのトータルディレクションを手掛けて頂き、新たな世代にも愛される横浜らしいホテルに生まれ変わりました。

HOTEL



### 旅と思い出

客室の家具やアメニティについて、お客様が気に入った家具の一部は購入できる日本初のシステムも導入しました。

HOTEL THE KNOT でお寛ぎいただき、気に入る家具があれば購入も可能です。体験だけでなく、旅の思い出をモノという形で一緒にお持ち帰りいただけます。



### 街と THE KNOT

THE KNOT は横浜に根ざす LOCAL FIRST のホテルを目指します。客室は港町横浜を感じるキャビンイメージ。戦前戦後、アメリカの所有地だったこの地の歴史的背景と、アメリカを中心とする欧米の文化が混在する街並みが残る横浜のカルチャーを表現したく、室内の家具はすべてアメリカンテイストのインテリアブランド ACME Furniture のアイテムや特注家具で揃えました。室内に飾られた写真は横浜を中心とした現在の街のワンシーン。客室からも横浜の街の魅力が伝わるよう、地域性・個性を大切にしています。



### 2つの食文化の融合

ホテル宿泊者以外の方も身近に利用いただくために、10 階にあったレストランを通りに面した 1 階に移動し、集客力向上を図ります。西洋と東洋のカルチャーが交わり独特の食文化へと発展した街、横浜を代表する「洋食」と「中華」が競演するオールデイ・ダイニング「PANWOK」としてリニューアル。ブランドデザインには、海外ブランドの国内進出などを多く手掛ける株式会社グリフォンに依頼。横浜国際ホテルで長年腕を振るってきた熟練の料理人の技術が、現代の新たな感覚とプレゼンテーションで生まれ変わります。



HOTEL THE KNOT YOKOHAMA は、ホテルに期待される機能・情緒などを再度見直し、新しい価値としてお客様にご提案します。



## 地 域との新たな出逢い

長い時間をかけて形作られてきた街の雰囲気や賑わい。丹念に手入れされてきた自然資源の数々。それらは歴史とともに佇まいや表情となって街の名残となり、今では散策やレジャーコースとして親しまれています。HOTEL THE KNOT YOKOHAMA では、横浜という街が有する独自の魅力をお客様にご紹介してまいります。

## 歴史ある 建物

### との出逢い

これまで地域のシンボルとなってきたホテル、多くの方々の思い出が詰まったホテルなど、古くなったから壊すという発想では、建物と同時に人々の心の財産も失くすことになりかねません。

HOTEL THE KNOT YOKOHAMA は、建物に残されたゲストの思い出や、街が古くから持つ風情を大切に、新たなホテルの価値として再生します。



## 文 化との出逢い

HOTEL THE KNOT YOKOHAMA では、横浜を拠点として活動する新旧さまざまな人々の創作や表現を街の魅力として紹介・発信する一方、それらを軸とした交流の場を提供します。





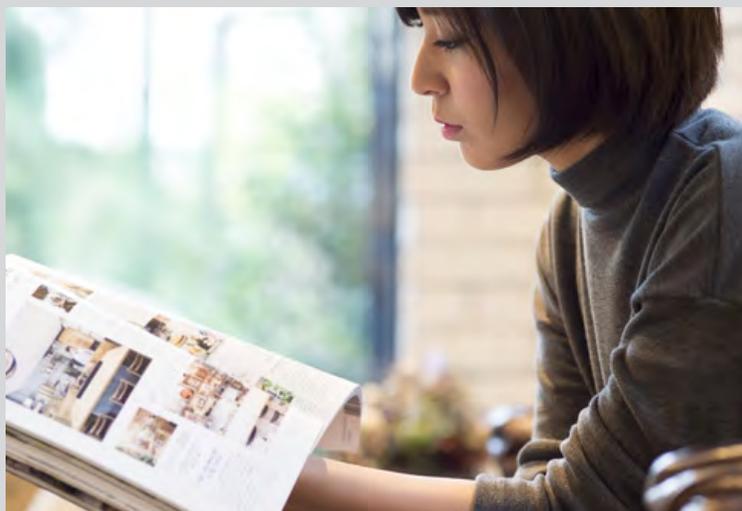
## 食との新たな出逢い

地域色が色濃く反映された、その場の自然や文化を活かした食事には多くの人々を魅了する力があります。HOTEL THE KNOT YOKOHAMA では、調理部門の優れた技を惜しみなくメニューの数々に投入。街の魅力を五感で感じ、お楽しみいただける数々のメニューを通じて、人々が楽しく集まる場をご提供します。



## 人との新たな出逢い

その街で暮らし活動する人々が日常的に集まる場は、地元の情報も自然と集まり、街の元気を支える一つのコミュニティです。HOTEL THE KNOT YOKOHAMA では特定のコミュニティに依存せず、来られる方をいつでも歓迎、おもてなしできる環境を用意し、お客様に横浜の魅力を体験いただくきっかけをご提供します。



## 新しい 寛ぎとの出逢い

客室・ロビーなどのホテル環境においては、居心地の良さだけでなく、街の持つ風情や歴史に裏打ちされた演出を細部に表現。快適な中にも新たな発見がある、ワンランク上の嬉しさを体験いただきます。



# Building Directory

## 4F-10F \_ Hotel Guest Room

宿泊者のみ利用する客室フロア。  
シングル・ツイン・エグゼクティブツイン・スイートの4タイプで構成します。

## 3F \_ Banquet / Rental Studio

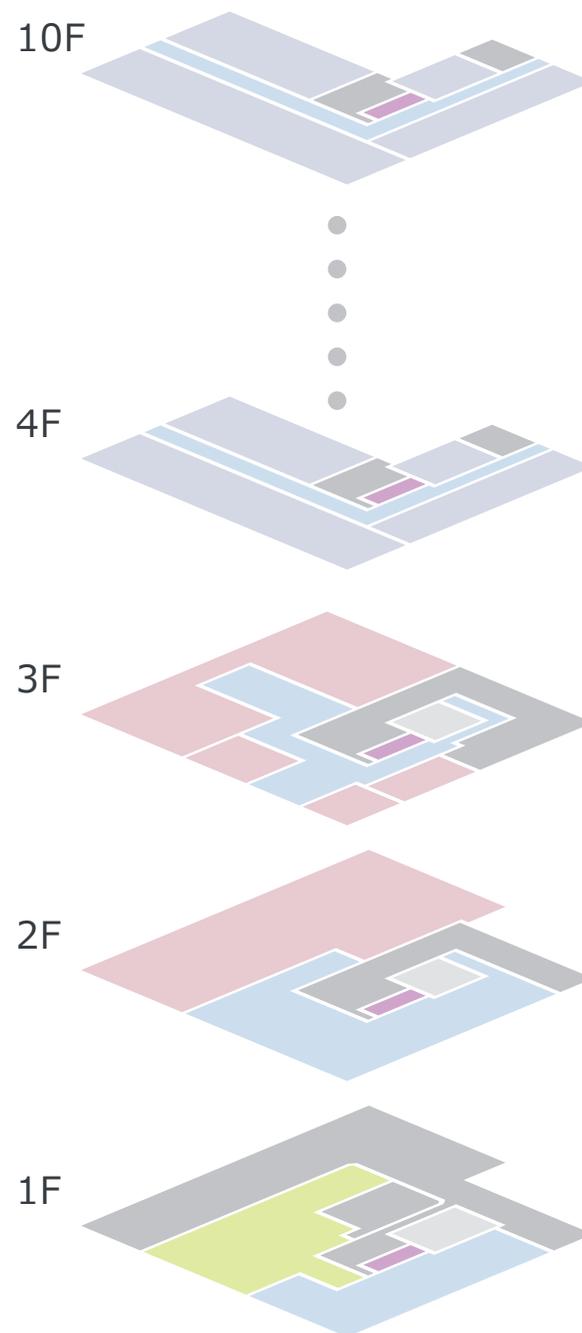
大人数/少人数の宴会利用を可能とする大小のバンケットルームで構成するフロア。  
その中の数室をレンタルスタジオとしても提供可能。  
喫煙室やスタッフルーム等、必要な機能を補うフロアとしてもリニューアル。

## 2F \_ Lobby Lounge / Banquet

宿泊者がくつろげるオープンなラウンジスペースを内包する2Fロビーと、  
大人数の宴会利用を可能とする3つのバンケットルームで構成するフロア。  
ラウンジは横浜や旅というテーマを中心としたモノ・コトの情報発信スペース、  
バンケットはビジネス利用や地域の方々にご利用いただくパーティースペースとして  
展開し、新たなコミュニケーションの場として展開していきます。

## 1F \_ Hotel Lobby / Restaurant

フロントが位置するホテルロビー、レストランで構成するフロア。  
レストランは宿泊者はもちろん、外部の一般のお客様もご利用可能な運営形態とし、  
空間・サービス・メニューの面で、ホテルコンセプトとの親和性を図っています。  
街の皆様が集う場として、ホテル全体のブランド認知を高めるアイコンとなることも  
目指しています。





## 実績高いホテルオペレーターと さまざまなクリエイターたちのコラボレーション

温故知新をテーマに進められたホテルリニューアルは、運営実績豊かなオペレーターとさまざまなデザイン・クリエイティブの専門家とのコラボレーションを通じて、独自の滞在体験を可能とする環境に仕上がりました。



LANDRAW



matsuki kousuke

YUSUKE HANAI

ホテルオペレーター  
**株式会社ホスピタリティオペレーションズ**

トータルディレクション・ブランディング・インテリアデザイン  
**株式会社ランドロー**

客室家具・アメニティ、共有スペース家具製作  
**株式会社 ACME**

F&B 新業態開発・監修  
**株式会社グリフォン**

フード&ドリンク メニュー開発  
**株式会社 EAT TOKYO**

アート (1F レストラン / 2F EV ホール&ラウンジ / 3F ラウンジ)  
**花井 祐介** Illustrator / fine artist

写真 (客室内)  
**松木 宏祐** Photographer



ホテルオペレーション

## 田中 章生

株式会社ホスピタリティオペレーションズ  
代表取締役 不動産鑑定士

当社は、様々なブランドのホテル運営を広く受託しているため、それぞれの特性に触れる機会も多く、ブランドごとの価値観の違いに対する理解もしているつもりです。その結果、ホテルブランドごとにフレキシブルな対応が可能であること、また過去の業務経験からオーナーサイド・オペレーターサイド双方の意向も理解しているため、バランスを考慮したマネジメントを実行できることが強みと言えます。

私たちは本件オーナーからのホテル受託件数も多く、今回のような新しい取り組みに対しても理解を持って全力で臨むスタンスでおりますが、これまでのホテルスタッフの雇用を継続しながらオペレーション会社が変わるというケースでは、現場の理解を得ることがとても重要になってきます。

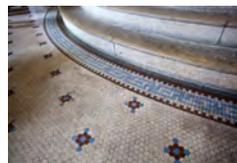
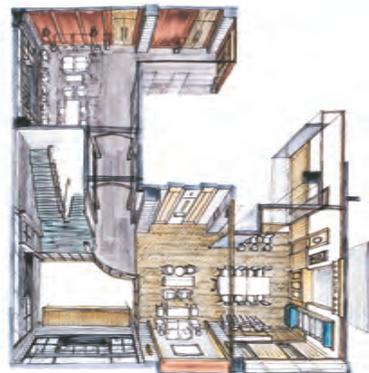
ホテル業界はこれまでの慣習が強く残っており、変化を好まない傾向にあります。今回も想像はしていましたが、モチベーションを同じ方向へ導くためにコミュニケーションの面ではエネルギーと時間をかけて取り組みました。

新しい試みに取り組む上では、これまでの方法を否定するのではなく、現場での意見交換やトライアルが活発であることが望ましいと考えています。

調理の現場においては、これまで厨房で2番手・3番手だった人材を料理長に抜擢するなどしてから、厨房内でも意見を言いやすい環境ができてきたようです。そういう雰囲気作りを重視してきた結果、スタッフのモチベーションも目に見えて向上し、一体感のあるチームができてきています。

今回のリニューアルで、レストランも10階から1階に降りてきて注目度も上がるでしょう。洋食と中華の2業態も厨房含めて距離が近くなり、一体感が出てきています。

これからの Hotel The Knot 横浜にぜひご期待いただければと思います。



左から 1\_ ホテルロビーのイメージ（横浜開港記念会館より） / 2\_ 共用部照明のイメージ（横浜開港記念会館より）  
3.4\_ 宴会場マントルピースのイメージ（氷川丸の一等社交室より）



トータルディレクション・ブランディング・インテリアデザイン

## 橋本 健司

株式会社ランドロー 代表取締役

その場所が持つ歴史的背景や地域性と、そこにあるべき価値を生み出すヒト・コト・モノと繋げること。今回、企画立案した「THE KNOT」ブランドには幅広い課題に応じていく可能性を持たせています。

1859年の開港以降、開国日本の象徴となり、国内外から訪れた多くの人々によって、質の高い文化交流を生み出してきた横浜。ここには新たな産業や文化を「融合」させようとする開放性があり、取り入れては再構築を繰り返す良い循環が、今日の横浜を創り上げていると思います。

その街で30年以上の歴史を持つ横浜国際ホテル。更なる歴史を重ねていくために、このホテルが残すべきものは何か、新たに取り入れるものとは何か、それを再構築すべくブランドを定義していきました。

ここに初めて訪れた時、風格ある外観に加え、従業員の皆様の心地よいサービスが印象的でした。このサービスを新鮮且つより魅力的に継承することを軸に、ホテルの在り方を模索することとしました。

ホテルが位置する横浜駅周辺はショッピングやビジネスの街であり、旅の目的地としては中継地点になりがちなエリアです。ただ、主要な観光地への利便性が高いということは、旅の「拠点」に適したエリアでもあります。

このホテルを「拠点」に、様々な目的を持ったゲスト同士の交流が生まれ、新たに「融合」する場所をデザインしたいという思いで、空間や機能を再構築しました。

旅と街を結ぶホテルとして、街の日常とホテルをつなぐためにレストランを通り沿いに計画すること。社交場としての宴会場を継承し、宴会利用者と宿泊者が共有するロビーを充実させること。客室での宿泊体験だけでなく、ホテル全体の体験として記憶に残るよう細部にまでこだわり、アメニティから家具まで購入可能とするショッピング機能を備えること。

すべては、横浜国際ホテルの風格ある外観やサービスがより魅力的になるよう、新たに取り入れた横浜に縁のあるデザイン・アート・ビジネスで再構築し、泊まる・集う・寛ぐ・祝う・楽しむといったそれぞれの体験に交流が生まれることを目的にデザインしております。

横浜に残る歴史的建築や船、戦後の復興とアメリカを中心とする欧米カルチャーが混在する街並みや背景をヒントに一つ一つデザインすることで、新たな世代に愛される横浜らしいホテルに生まれ変わったかと思えます。

ACME Furniture とのコラボレーションは、デザインする過程で最初に頭に浮かびました。アメリカンヴィンテージからインスピレーションを受け、常に新たなものを製作し続けているブランドとして、今回のテーマにピッタリな、なくてはならない存在です。

HOTEL THE KNOT YOKOHAMA は港町である横浜、過去から未来までの時間軸だけでなく、本件オーナーの社是である「一期一会」とも深いつながりのあるブランドネームとして名付けました。

一つ一つの「ご縁」を大切に、今後の横浜を担うホテルになるよう、まだ続く進化を近くで見続けたいと思っています。



客室家具・アメニティ、共有スペース家具製作

## 辻 雅彦

株式会社 ACME 上席執行役員 CCO

HOTEL THE KNOT YOKOHAMA のお話を頂いたとき、「是非チャレンジさせていただきたい！」と即答させて頂いたこと今でも鮮明に覚えています。

ACME Furniture は、「1950 年代の豊かなアメリカ」を軸にしたヴィンテージ家具とオリジナル家具をこだわりあるユーザーの家庭用に販売する事業を展開してきました。近年カフェや美容室など商業空間での採用も増えてきましたが、大型コントラクトの経験はなく、同じ家具とは言え私たちとは別世界だと考えていました。

しかし、LANDRAW 橋本さんからお声掛けいただいた時、HOTEL THE KNOT YOKOHAMA プロジェクトで求められているのは、あくまで「ACME らしさ」、私たちの得意・不得意をご理解いただいた上でのお願いであったことを知り、是非このプロジェクトに参画させていただきたいと考えました。

また同時に、私たちにとって大型コントラクトに挑戦することは、家具ブランドとしての成長になると考えました。

まず、実際に 150 室におよぶ客室への納品は、同じモノが一つと無い天然木を手作業で製作している工場にとっても挑戦でした。

担当者自ら現地に赴き、試作チェックから、出荷前検品にも立会いました。

クオリティと納期厳守を両立させる厳しい状況を乗り越え、私たちにとって何事にも変えがたい貴重な経験になりました。

そしてもうひとつ、業界でも初めてとなる「ホテルの家具が買える」という提案も挑戦でした。ホテルでの時間を大切にしたいお客様が増えている中、寛ぎの要素である家具を購入できることは、店舗でも体験できない新しい価値提供です。宿泊されるお客様の反応を想像してワクワクしています。

ブランド初の大型コントラクト、そして業界初となる新しい販売方法。

そういう意味で HOTEL THE KNOT YOKOHAMA プロジェクトは、私たちにとって大変有意義なチャレンジとなりました。

# PAN WOK

フライパンと中華鍋

横浜の洋食と中華が新しくなりました



F&B 新業態開発・監修

## 齋藤 貴史

株式会社グリフォン  
代表取締役 プロジェクトデザイナー

これまでの経験から、歴史と伝統のあるホテルの運営スタッフを継承して、新たな資本や外部コンサルタントが参画する形でホテル全体をリブランディングする際の意識改革や顧客戦略の軌道修正の難しさを、自分たちは十分理解しているつもりでした。

そのため、横浜国際ホテルが新しく生まれ変わるにあたり、今まで築いてきたことと、新しいアイデアや取り組みをどう融合させ、共に新しいチャレンジに挑めるチームとなるか。この課題を私なりの立場でバランスをとりながら、プロジェクトを推進しました。

まずは支配人・マネージャー・調理部門の皆さんのお考えや、新しいことへのリベラル感、そして実際の技量などへの我々の理解が大切と考え、一方的な提案というよりは、「ありうる仮説」をホワイトボードに描きながら、話し合いを繰り返しました。

新たな飲食業態のヒントとなったのは、洋食と中華の2ラインの厨房が明確かつ対等に存在していたこと。そのことは、とても横浜らしいインスピレーションとなりました。

そこからは、その洋食と中華を戦わせるか、または共働させるか。

料理は両分野とも「定番」を中心に据えながら、「結ぶ」という THE KNOT のコンセプトに沿って一つにまとめることで良いものが誕生するのではと考えました。

メニュー開発でコラボレーションした EAT TOKYO からは、調理部門の皆さんのスキルが予想以上に高いと聞いていたので、一旦方向性を共有できてからは、比較的楽しみながら、積極的にレシピ共有や試食会などを越えて行けたと見ています。

都市型ホテルのレストランの場合、当然ながら朝食はフルで稼働しますが、ランチそしてディナーの集客はどれも課題です。宿泊特化として、朝食ビュッフェ以降はカフェにするのか、街場のレストランと変わらない独立した飲食店としていつでもお客様で溢れるお店となるのか。

今回はその課題を魅力的なメニューとプレゼンテーション、同時に横浜の空気を感じられて、人々と集いたくなる街角レストランとすることで挑戦すると同時に、ホテル全体のブランドタッチポイントとして認知を高めるアイコンとなることも目指しています。

これからのホテルには、地域客が日常的に利用できるコミュニティやサービスをどれだけ多く提供出来るかが価値として求められると考えています。PANWOK がこのホテルにとってそのような流れを牽引できるレストランになることを期待しています。

THIS IS NOT  
JUST A  
HOTEL  
THIS IS  
HOTEL  
THE  
KNOT



PLEASE  
GRAB A TABLE  
AND  
ENJOY YOUR  
MEAL



アート (1F レストラン / 2F EVホール&ラウンジ / 3F ラウンジ)

## 花井 祐介

Illustrator / fine artist

1978年生まれ横浜出身。イラストレーター／ファインアーティスト。

2006年よりCalifornia、Laguna BeachにあるThe Surf Galleryにて作品の展示を開始。

翌年には世界中のアーティストを集めて開催したグループショー The HAPPENING に参加、New York, Sydney, Tokyo, London, Parisにて作品を発表。

50～60年代のカウンターカルチャーの影響を色濃く受けた作風は、日本の美的感覚とアメリカのレトロなイラストレーションを融合した独自のスタイルを形成している。

VANS, NIXON, BEAMS等へのアートワークの提供など、国内外問わず活動の幅を広げている。

<http://hanaiyusuke.com>



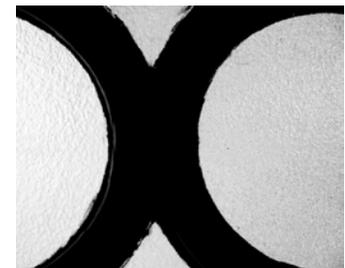
写真（客室内）

## 松木 宏祐

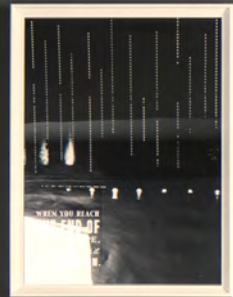
Photographer

1983年、大阪府吹田市生まれ  
大阪芸術大学芸術学部写真学科卒業（土田ヒロミゼミ）  
バナナプランテーションスタジオ勤務、木寺紀雄氏に  
師事した後、2012年 独立。

富士フォトサロン新人賞 2008：奨励賞（姫野希美）  
第一回塩竈フォトフェスティバル Phat photo 賞



HOTEL THE KNOT YOKOHAMA の客室内写真では  
横浜のシンボリックな風景や建物のディテールを切り  
取り、街の記憶となるような横浜らしさを  
・港町としての横浜（=YOKOHAMA）  
・あらゆる瞬間（=24/7）  
の共通点（THE KNOT）に見立てて表現しています。



### *messages in a room*

客室内には、今日1日を終え、寛ぐゲストに対して良い気持ちに切り替わる「きっかけ」という意味でのKNOTとなるよう、ポジティブなメッセージをそれぞれに込めています。アメリカ英語の表現を中心に、壁掛け写真のうち2点については偉大なアメリカ人の言葉を引用しています。

またアメニティの各所にも、ウィットに富むメッセージを盛り込みました。ご滞在の間にお楽しみいただけることを期待しています。

When you reach the end of your rope, tie a KNOT in it and hang on.  
\_Thomas Jefferson

自分のロープに終わりが来てしまったら、そこに結び目を作り、しがみつけ。  
\_トーマス・ジェファーソン / 第三代アメリカ大統領

Twenty years from now you will be more disappointed by the things  
you didn't do than by the ones you did do.  
So throw off the bowlines. Sail away from the safe harbor.  
Catch the trade winds in your sails. Explore. Dream. Discover.  
\_Mark Twain

今から20年後、あなたはやったことよりもやらなかったことに失望する。  
ゆえに、もやいを解き放て。安全な港から船を出せ。貿易風を帆にとらえよ。  
探検し、夢を見、発見せよ。

\_マーク・トウェイン / アメリカの小説家

【HOTEL THE KNOT とは】

## たくさんの 一期一会があるホテル

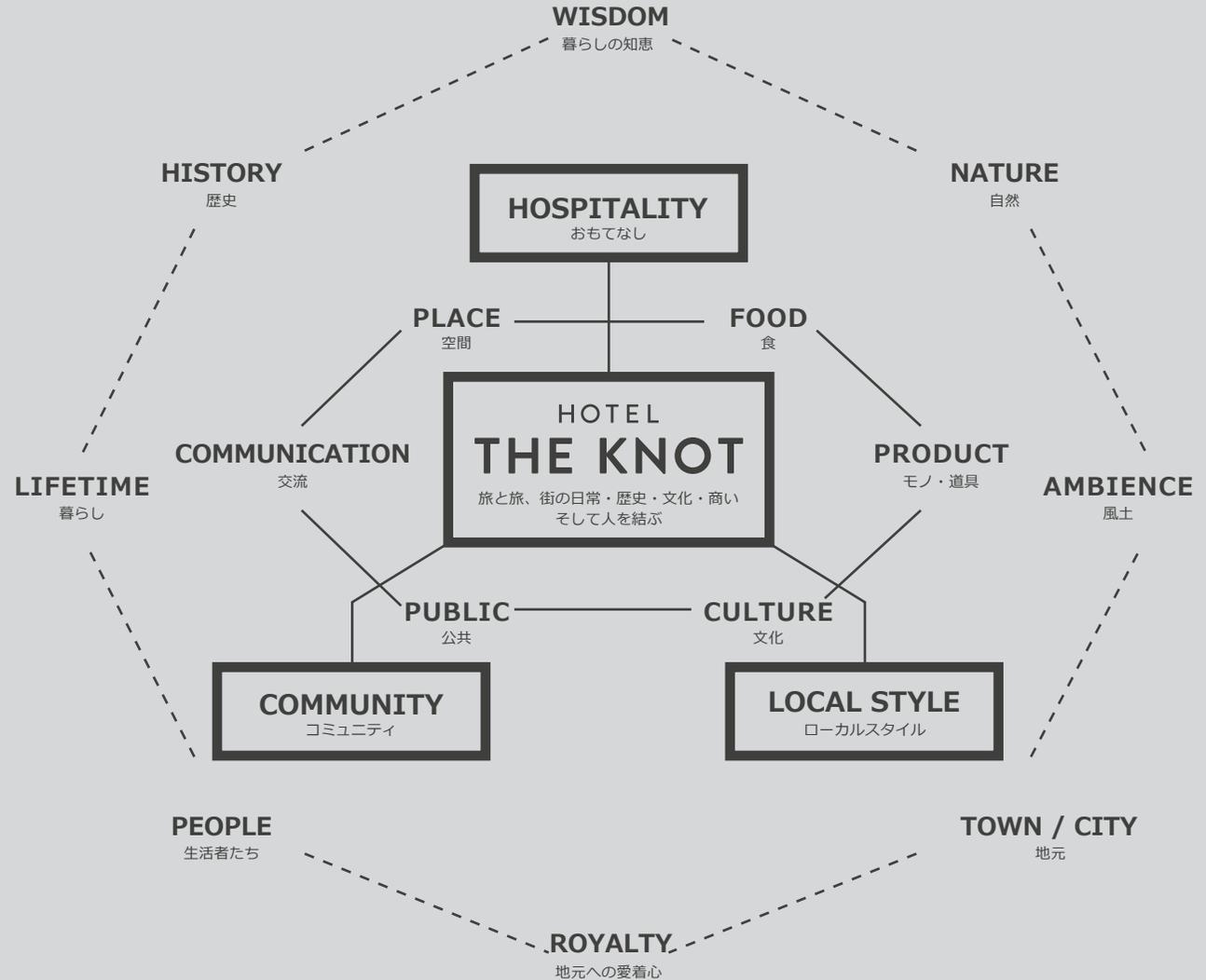
日本は「観光立国」を国策に掲げ、この十年余りで多くの外国人観光客が旅行にやってくる国へ変わりだしています。そして国内を見渡すと、ホテルの在り方は多様化が進んでおり、私たちは地域資源や文化を前面に打ち出すホテルに対して共感と支持が高まるものと考えました。

このような背景の下、いちごは、これからのホテルに求められる要素・機能を研究。新規事業として「観光立国」支援に繋がる新たなタイプのホテルをつくることとなりました。

社是でもある「一期一会」をあらゆる観点から叶えるべく、旅やビジネス、または日常的に訪れるお客様に、その地域その場ならではの深い体験をご提供することを目指して、街の歴史・文化・食・交流などを一つの世界観に凝縮したホテル。

ソフト・ハードの両面から、ヒト・モノ・コトをつなぎ、他では得られない良質な体験をご提供できるホテルとなることを目指し、「結び目」を意味する英語「KNOT」という名前にその想いを込めました。

いちごでは、魅力的なホテルづくり・運営を通して、日本そして地域の魅力化に貢献していきます。





## 長谷川 拓磨

いちご株式会社 代表執行役社長

### 「新しいホテル」を創る 不動産会社としての 新たな挑戦

我々は、社会により良い提案ができる不動産会社となることを目指しています。HOTEL THE KNOT はそういう観点からも我々にとって一つのチャレンジなのです。

### KNOT という名前に込めた想い

不動産業界は未だ時代の流れに対応しきれていない部分も多く、いつか不動産事業の一環として、これまでにない「新しいホテル」を創りたいという想いを以前から持っていました。

昨今では、海外の方々による日本観光も増え、これまでの内需によるホテル運営から本格的に外需を見据えたホテル運営の時代に入っています。

多様なニーズが見込める中、どのようなホテルを創れば、お客様に喜んでいただけるものになるのか、私たちは研究を重ねてまいりました。

その結論の一つとして、単なる宿泊施設ではなく、地域の拠点としての役割を強化したいと考え、英語で「結び目」を意味する「THE KNOT」という名称でホテル事業をスタートいたしました。

当社の主軸となる事業は「心築（しんちく）」です。これは、「心で築く、心を築く」を信条とし、既存の不動産に新しい価値を創造する事業です。

社名の由来である「一期一会」にも繋がりますが、私たちがこれからの時代にご提案できるものとして、不動産を通じて様々な出会いを大切に、歴史・ヒト・コト・モノの「結び目となる」役割が挙げられると考えています。

ホテルにおいても同様で、地域の歴史や文化、アートやグルメ等、人々が集まる場を提供することで、ハードとソフトが繋がる「新しいホテル」が出来上がるのではないかと。また、それが実現すれば、地域内外の人が自然と集まっていただけの社交場として、ホテルはその役割をもっとパワフルに担えるのではないかと。そのように考えたのです。

まだ始まったばかりですが、地方創生、日本を豊かにすることを事業目的の一つとしている私たちとしては、日本地図に多くの「結び目（KNOT）」を作っていきたい。このような想いから、第1号案件を横浜で実現することとなりました。

「THE KNOT」のプロジェクトは3年越しで温めてきたものであり、個人的にも様々な思い出があります。

地域に根付いたホテルとして新しい価値を再び創りあげる。そのためにはまず、私たちがその地域に敬意をはらい、地域の良さを肌身で感じた上で、これまでの魅力に何を新たに創り加えるかをビジョンとして描く必要があります。また、そのビジョンが地域に受け入れられないと意味がありません。

ホテルは新たに営業を開始してからがとても大切です。私たちは、広く皆様に愛されるホテルに育てていきたいと、その運営とサービスのクオリティをどう上げていくかが肝心だと考えています。引き続き、ホテルオペレーターの皆様と力を合わせて横浜に根差した新しい「街のシンボル」となるホテルへの成長を目指してまいります。

世界が目まぐるしく変わる今、私たちは過去の成功体験に固執することなく、常に変化し挑戦を続けていくことが必要です。これまでの不動産業界で後回しになり着手されずにいたことにこそ、新しい価値を創造するチャンスがあります。

私たちは、変化を恐れず挑戦し、社会により良い提案ができる不動産会社となることを目指してまいります。

「HOTEL THE KNOT YOKOHAMA」は、そんな私たちの新しいチャレンジの一つなのです。

【ホテル「心築」のアプローチ】

温故知新の視点：歴史・人々に敬意を持ち、これからの需要に応える

# 現存する資産を活かし、新たな魅力を創る

いちごの「心築」とは

「心で築く、心を築く」という信条のもと、いちごは既存不動産に新しい価値を創造する「心築」事業を展開しております。

既存ストックの有効活用は、省資源かつサステナブルに寄与する、社会的意義の大きな事業と捉えています。築年の経過した建物や遊休地を、独自の「心築」技術を通じて違法性治癒・耐震補強、稼働改善等を行い、不動産の持つ本来の価値を活かし、価値向上を導きます。社会的にも有意義な資産へと生まれ変わらせることで建物が持つ固有の歴史を活かし、街の記憶を未来へとつなぐ公共的な資産づくりにも寄与することを大切に考えて事業を進めています。

いちごの心築

## 街・建物の歴史に敬意を持つ

街そして建物には、その地域に暮らす人たちの営みの積み重ねがあります。いちごでは、その積み重ねに敬意を持ち、スクラップ&ビルドとはまったく異なるアプローチで地域に臨みます。

## 現存する建物を活かし、新たな魅力を創る

これまでの歴史を踏襲することから、その街の未来に新しい個性が根付く。いちごはこのような考えに基づき、歴史の面影を残すことと、新しい魅力を付加することの両立を追求します。



## 細野 康英

いちご地所株式会社  
代表取締役社長

### 素晴らしいチームワークが このホテルを形にした

オペレーション・デザイン・ホスピタリティ。  
あらゆる面でプロフェッショナルの力と知恵を  
融合できたことが、このホテルの財産です。

HOTEL THE KNOT YOKOHAMA は、これからの時代に求められるホテルの在り方を目指して手がけたいちごのフラッグシップホテルです。

30年以上の歴史がある名門横浜国際ホテルをこのような形でリニューアルさせていただくことに対する責任とプレッシャーは重く、これまでの歴史を大切に継承させていただくことを第一に意識しました。

横浜国際ホテルの歴史とスタッフ・サービスを尊重し、さらには横浜の街と雰囲気大切に、建物・客室、バンケット、レストランを今の時代に合ったものに変えるという難易度の高いチャレンジでした。

こうした多くの要素を解決できるチームづくりが最初に必要であると考えていました。

本プロジェクトをリードいただいた（株）ホスピタリティオペレーションズの田中社長、松原総支配人のご尽力なくして

は成り立たなかったと考えています。

さらに重要な要素であるホテルのコンセプト、インテリアデザイン等トータルディレクションをご提案いただいた（株）ランドローの橋本様、家具やアメニティのプロダクトデザインでコラボレーションさせていただいたバイクルーズグループ（株）ACMEの辻様、レストランのリボーンに際してアドバイスをいただいた（株）グリフォンの齋藤様、クオリティの高い工事を施工いただいたZYCC様、その他各部門のプロフェッショナルの皆様のチームワークに大変感謝しております。

この1年半のリニューアル期間には、多くの難題がありました。新しいホテルの誕生のために知恵を出し合い、あきらめずに解決できたこと、それぞれの分野での才能が融合して臨機応変に対応できたこと、妥協しないことがこのような形になりました。

THE KNOT はこれから出帆します。

横浜の「旅 - 街 - 人」を「結ぶ」ホテル」として愛されるホテルになれるようにしていきたいと思っております。



## HOTEL THE KNOT の特長

いちごは、心を込めて既存不動産に新しい価値を創造する、心築（しんちく）事業を軸とした事業モデルを展開しています。

HOTEL THE KNOT は中期経営計画「Power Up 2019」に掲げる新規事業の創出として、国策でもある「観光立国」の支援に繋がる新たなタイプのホテル提供に向けた取り組みです。

そこでしか体験できないこと。そこでしか味わえないこと。わざわざ過ごしたい、そこで時間を「温故知新」をテーマに、その場所が持つ歴史的背景や地域性を活かした、地域の拠点となるような役割を担えるホテルを目指します。



# HOTEL THE KNOT YOKOHAMA

## 物件概要

所在地	横浜市西区南幸 2 丁目
交通	地下鉄横浜駅徒歩 3 分
敷地面積	854.06 m <sup>2</sup>
延床面積	5794.75 m <sup>2</sup>
用途地域	商業
構造	SRC 造
施工	Zycc (ジーク株式会社)
オペレーター	ホスピタリティオペレーションズ
竣工	1984 年



## 日本を世界一豊かに。

その未来へ心を尽くす一期一会の「いちご」

いちごは東証一部に上場（2337）しており、「心築」を軸として、不動産価値向上、J-REIT（いちごオフィス 8975・いちごホテル 3463・いちごグリーン 9282）の運用、メガソーラー（大規模太陽光発電）を中心としたクリーンエネルギー事業をグループで展開しています。

### いちご株式会社 会社概要

所在地	東京都千代田区内幸町一丁目1番1号 帝国ホテルタワー	登録・免許	一級建築士事務所 東京都知事登録第 55543 号 宅地建物取引業 東京都知事（2）第 90527 号 建設業 東京都知事（特-26）第 141677 号
設立年月日	2000年3月17日	証券コード	2337（東証一部）
資本金	26,650 百万円（2017年2月末現在）	連結子会社数	59 社（2017年2月末現在）
事業内容	アセットマネジメント、心築、クリーンエネルギー事業		

当社の「いちご」は、千利休が説いた茶人の心構えである「一期一会」に由来しております。  
いちごは、一期一会のもつ「人との出会いを大切に」という精神を理念とし、各ステークホルダーの方々と強固な信頼関係を築くことを目指しております。

